

「わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、

地の果て果てまで、あなたの所有として与える。」 (詩篇2:8)

皆さんがカンボジアの為に御祈りをして下さる時、もっと具体的にニュースをお伝えして力ある御祈りの働きをして頂くにはどうしたらよいのか、と考えて、今月からカンボジア通信をお送りすることにしました。御祈りの時や教報の宣教師報告にカンボジアが出る時、これを脇に見ながら、カンボジア宣教に加わって下さるよう、お願い申し上げます。

協力関係にある団体名：クメール・コミュニティー・チャーチ (KCC)のご紹介

カンボジア人(クメール人)による自給自立の教会を建て上げるように神様から導かれて今迄アメリカからの援助を受けてきた教会から分かれて新しく出発したKCC(クメール・コミュニティー・チャーチの略名)の伝道者方です。IGMはこの群の独立と自給教会建設を見守りながら、協力する働きに導かれました。御祈り下さい。



多くの先生方は生活費を信仰によって与えられる事を原則としています。(マタイ6:34)。然し、殆どの伝道者方はパウロがしたように仕事をして生活を支えながら教会を建て上げる道を、主として奥さんが働き、家計を支えて伝道の為に御主人と子供達を養いつつ戦っておられます。是非、皆様も御祈りの支援をして、先生方の必要が日々、備えられ、教会が建ち上がるようにお祈りをして下さり、祈りによって宣教に加わって下さい。



最初はウエスレアン教会の宣教地の一つとして出発しました。最初の宣教師として派遣されたのはジュン・ラファエルとマメール夫人です。(写真左)。二人ともロザリスのウエスレアン聖書大学の卒業生で、私の教え子です。ですからある意味、カンボジア宣教はIGMによるフィリピン宣教の継続と言えます。この先生から神学校の教師不足が訴えられてきました。丁度、香港の働きを終えた私の元にも届き、梅田先生や私が交代に短期で教えに行っていました、

2007年以後は私の宣教地として3か月、翌年は6か月滞在し、その年にIGMの宣教師館が広い神学校のキャンパスの一角に建てられました。然し、その後米国W教会とカンボジアW教会との間に起きた問題でカンボジアから身をひき、現在はアメリカでフィリピン人教会の牧会をしておられます。

神学校もアメリカからのサポートが切られ、経済的に継続ができず閉鎖、IGM宣教師館を含め、神学校の建物と敷地全部は他の教会のミッションスクールに貸し出されるという出来事が歴史に残りました。因みに宣教師館の建設費は米国W教会から8年のローンで



IGMに返却されつつあります。この献金はカンボジアの宣教の為に捧げられたので、今後、必要に応じてカンボジア宣教の働きの為に用いさせて頂くことにしております。

次の頁の写真はクメール人のヴァンディー牧師ご夫妻とダビデ君。神学校の校長先生でし

たが今、KCCの伝道者のリーダーとして頑張ってます。IGMの自給自足の教会の歴史を聞いてクメール人による自立教会を建てあげる為に立ち上がりました。今年の一、月、プノンペン市に二つ目の教会を開拓するべく、近くにお住まいのアメリカ人宣教師、マーク・フィッセル先生の御協力を得て開拓伝道を開始しました。沢山のクメールの方々がイエス様を求める心をもって集まるように御祈りください。

KCCに協力して働きを進めて おられる二人の宣教師方のご紹介

一人はフィリピンのシニプシップ出身のグレッグ先生(左側)とアメリカからのマーク・フィッセル先生(真ん中)です。

グレッグ先生もウエスレアン教会から分かれて、自給でカンボジアの人々の救いの為に伝道活動に入られました。今、奥様のレイシー先生が二人の娘さんの教育費と生活費の為に幼稚園の先生として働き、グレッグ先生を支えておられますが、先日のメールで、もっと良い収入が必要なので、新しいお仕事場があたえられるように御祈りして下さい、と要請がありました。



フィッセル宣教師はヴァンディー牧師と出会う前にはカンボジアの働きをする場所やその形態をどうするべきか、主の導きを仰いでおられました。ヴァンディー牧師と出会いKCCの証しを聞き、祈った後、KCCに協力するように導かれました。先生もウエスレアン神学に立つ教会出身で、キヨメの信仰に立つ単立宣教師ですが同じ信仰の器であるということでKCCの働きに喜んで加わって頂く事を承認したそうです。

先生の宣教師としての御働きを見ておりますとリーダーとして旗を振り回すのではなく、「真実」「謙遜」に現地人の働き人の横に立ち十字架と一緒に担う働き方をされています。穏やかな先生ですがグレッグ先生も、ヴァンディー牧師もこの先生の其処此処にみるユーモアと暖かな人格、ホーリネスの中心である愛の実践者としての御存在に、慰めや励まし、アドバイスを頂きながら、時には行き詰まるような問題で信仰の灯が消されるような時も、「神の灯なお消えず」と燃え続けさせるサムエルのような御用をしておられます。正直な処、私自身も現地の先生方同様、先生の協力を得て主の御働きと一緒に進めさせて頂く同労者が与えられました事を感謝します。来月、五月の後半に健康の状況を考えながらも、二年間のブランクの間の働きの成長具合をみながら、今後の宣教の策戦を練るべく2、3か月赴きますが、特に左足のしびれたまま、出かけますので、健康が支えられますよう、又、宣教師館が無くなった為、今回は一月に開拓を開始した教会の建物のゲストハウスを

御借りして生活しますので見守りをお祈り下さい。最後に御祈りの課題をお伝えします。

1. 再開されるカンボジア宣教の全行程に主の御心だけがなされるよう。
2. 現地の全伝道者の信仰と救霊の力が御霊によって多くの結実に導かれるよう。
3. グレグ師、ヴァンディー師のリーダーシップの下にある現地人伝道者の為。